

第3回屋外温浴施設に関する基本構想策定委員会 議事要旨

日時：令和2年3月2日（月）9:30～12:05

場所：別府市保健センター1階多目的ホール

1. 議事

- (1) 第2回委員会後の事務局からの補足説明
- (2) 屋外温浴施設に関する基本構想(案)について
- (3) その他

<事務局説明>

第2回委員会の補足説明及び屋外温浴施設に関する基本構想(案)について説明

<主な意見>

- ・ 新しい価値、新たなニーズの発掘も出来て、別府市に行って初めて経験が出来るような施設が求められる。別府にしかない施設として砂湯があり、従来の砂湯も大事であるが、新たな砂湯の体験、見せ方、景観の中での砂湯の姿をどのように作り上げていくかが大事だと考える。自然の中で砂湯を楽しめる、楽しんでいる姿を見てもらうということかなど。何処で行うかにもよるが、構想としてはそれぞれの場所でどのようなことができるかを整理して結論にもっていくのが手法として納得なのではないかと。
- ・ 行政としては温泉保護と環境問題と併せていかに観光客にアピールできるかが大事であると考え。別府らしさを追求しつつ、環境対策や温泉保護のような視点を持ち、他の温泉地に先駆けて発信していくことが大切である。
- ・ 別府市の動きは全国的にも注目されているので、先駆けになることを意識したほうがよい。
- ・ 「情報化社会における飽きやすさ」に対して、物語性とか、感動や楽しさとか、新たな価値を作り、ハードウェアだけに頼らずに、ソフトウェアを開発する取り組みが必要。
- ・ 日本の温泉の中心が別府なので、別府市を中心に日本全体の温泉の価値みたいなものを、世界中の方そして日本人も知ることができるような、日本の温泉発信基地別府みたいな、そういう施設になればいいなと改めて思う。
- ・ 山側は湯量確保の面でハンデがあるが、山側の議論がもっと必要ではないか。
- ・ 自然景観の素晴らしさ（地形景観）と温泉を結び付けられるとこれ以上のものはないのでは。新たな泉源を掘削することは難しいとの議論であるが、既存の泉源へ影響を与えないように掘削できないのか検討する必要があるのでは。
- ・ 鍋山付近は硫黄の香りがする濃厚で個性的な温泉が多いので、観光客には見た目や泉質が判りやすく温泉に来たことへの体感は大きいと思う。
- ・ マーケットからの観点からすると、団体型のお客様はもう受け入れないとか、要はどここのマーケットは捨てるとか、そういう情報発信だってある。そうすると、物語と質と情報発信力。規模だとかそういうものに拘らず、湯量の中でできるような範囲で、少しずつやりながら修正ができるということが、非常に大切なのではないかなと思う。事業性と、事業主体と、どういう形で運営をしていくのが一番最適なのかを含めて、検討するべきでは。
- ・ 扇山からの眺望は本州には無いすばらしい景観であると認識している。ただし、アポイドエリア内であるため、他の温泉へ影響が出ないようにすることが重要と考える。
- ・ 環境保護を踏まえた上で、規模にとらわれず、調査研究、検討が必要である。
- ・ SWOT分析として、細かく表現すると、とがった表現になる。全体的に強み・弱み・脅威等をまとめて表現して、“各委員からこのような意見がありました”でもよいと思う。

- ・ SWOT 分析は、良く行われるが、一つの見方に過ぎないので、もっとマイルドな表現でもよいと思う。
- ・ 戦前から別府は温泉研究の拠点であり、日本温泉科学会等、別府温泉をフィールドとした研究が多い。しかし、学術的な専門家の間では非常に別府は存在感があるけれども、観光面で、ワンオブゼムの温泉地になっていて反省点としてはある。普及啓発的な、あるいは情報発信の重要性を強調し、新たな温浴施設が補完する役割となるといい。
- ・ 各委員の意見として提出されたものは、割愛せずにすべて残していただきたい、議事録の形でよいので。
- ・ ブルーラグーンを発端とした議論ではあるが、別府らしさを生かしたブルーラグーンをオマージュした施設を作るべきと考える。別府らしさが基盤であり、真似するのではなく、対抗するものをつくる必要があると考える。
- ・ 時間的な広がりとしては、別府市の温泉の変遷は奈良・平安から始まり、明治時代には、上総掘りと呼ばれる温泉掘削の技術が別府で実用化され、砂湯の登場、露天風呂の普及、現在に至っている。今後は、資源保護、新たな入浴方式の提案が必要であり、SDGs 達成や入浴事故死ゼロ等、未来社会を先取して取り組んでいくことが重要である。
- ・ 空間の広がりとしては、別府が一遍上人の上陸地だったことや、観光バスやガイドの発祥といった、温泉「聖地」としての位置づけがある中、別府がゲートウェイ的な PR 機能を果たし、また温泉が物理・化学・地学を学べる教材であることを活かし温泉博物館としての啓発機能として役割を果たす。さらに、日本全国の温泉文化・様式を体現できる機能を持たせ、世界の温泉文化・様式へ誘導していくことが有効と考える。
- ・ 日本全体の入浴文化を感じられる施設が別府に欲しい。下呂温泉博物館は温泉好きにとってはたまらない場所で、ぜひそのような施設が別府市にも出来るべきと思う。
- ・ 温泉のことをよく知っているようで、知らない方が多い。温泉の知識・普及啓発をしていくと、別府がいかに素晴らしいかがわかる。そのことが別府の宣伝になる。
- ・ 別府市は数百円の施設が多いが、国外の方からは安さに驚かれる。世界相場、日本全国平均からみても安いので、価値を高め、価格帯を高める事を盛り込んで良いかと思う。
- ・ 女性は感性が敏感であり、温泉・美容・食事などを楽しめる温泉旅行を牽引する立場である。そこに学びが付け加えられる。今、子連れの旅行が増えつつあるので、子連れのママ友と遊びに来られるような施設、連れてきた子供を温泉施設が提供する英会話学校に預け、女性は温泉を楽しむといった物語のある地域を探されている方は多い。全ての客層を受け入れるマーケティングの時代は終わったので、具体的な目標を掲げてほしい。
- ・ 海上温泉はどうか。海外には、湖の横にホテルがあり、レイクビュー、中にはスパ、外には浮島のようなジャグジー、巨大なプールがあり夜は下からライティングされ幻想的できれいな施設がある。日本には一つも無く、大きなコンテンツ力になるのでは。
- ・ 構想なので、夢がある内容で取りまとめて欲しい。
- ・ 上人が浜公園エリアには、源泉が5つあり2つ使用、3つは未使用なので、まずは3本代替掘削して湯量の確認も必要ではないか。
- ・ 基本理念に沿ったワクワク・ドキドキするような夢のある基本構想に取りまとめ、世界をリードするような施設にして欲しい。
- ・ 委員会を通じ学べることもあった。基本理念である別府しかできない体験を求め世界に一つだけの施設になる事を望む。

<副市長挨拶>

2. 連絡事項

以上